JOT

社会とともに発展を遂げる企業であるために

2017

CSR報告書

Corporate
Social
Responsibility

Shift for the Next

安全の徹底と質の高いサービスで
未来への責任を果たします

CONTENTS

02 会社概要

03 巻頭特集
【トップ対談】
私たちが追い求めるもの

09 日本石油輸送のCSR

10 目標と実績

11 コンプライアンス

12 品質管理

13 安　　全

15 環境保全

16 人間尊重

17 社会貢献

【編集方針】

「CSR報告書2017」は、JOT(日本石油輸送)グループを支えてくださっているステークホルダーの皆様に、JOTグループが取り組んでいる様々なCSR活動を広く発信することを目的に発行しています。巻頭特集では、「JOTグループで働く社員が、社会との関わりの中で大事にすべきこと、そして何を目指していくべきなのか」をテーマに、代表取締役社長の森田公生と社外取締役の坂之上洋子が対談を行いました。また、後半部分では、JOTグループのCSR推進テーマの項目に基づき、各活動の考え方、実績、取組み内容事例について報告しています。

【対象期間】

原則として、2016年4月1日から2017年3月31日までを対象期間としていますが、一部、2017年4月以降の内容も含んでいます。

【対象範囲】

日本石油輸送株式会社
およびグループ会社5社

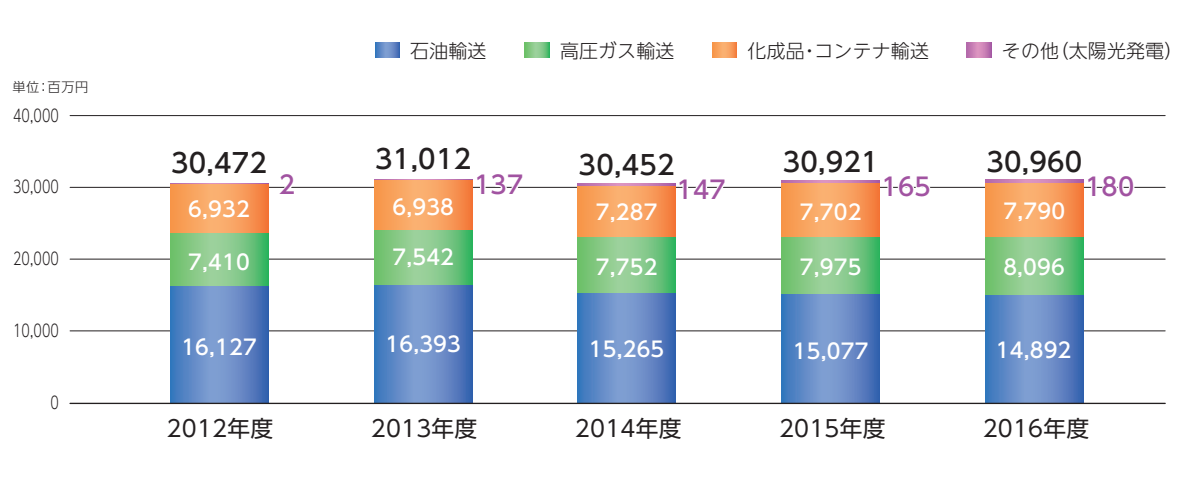
【発行時期】

2017年10月

会社概要

社　　名	日本石油輸送株式会社 Japan Oil Transportation Co.,Ltd.
所　在　地	東京都品川区大崎一丁目11番1号
設　　立	1946年3月27日
資　本　金	16億61百万円
従業員数	連結1,396名、単体161名(2017年3月31日現在)
事業内容	1. 石油製品(ガソリン・灯油等)の鉄道タンク車輸送・貨物自動車輸送 2. 高圧ガス(LNG等)の鉄道コンテナ輸送・貨物自動車輸送および複合一貫輸送 3. 石油化学製品等の鉄道コンテナ輸送・貨物自動車輸送 ならびに国内および国際複合一貫輸送、各種コンテナのリース 4. 鉄道用冷蔵・冷凍コンテナ等のレンタル・リース 5. 太陽光発電事業
グループ会社	株式会社エネックス 近畿石油輸送株式会社 株式会社ニチユ 株式会社ニュージェイズ 株式会社JKトランス

財務ハイライト 連結売上高推移



仕事をしていて一番辛かった時期

坂之上：社長が会社に入られて、一番辛かった時の話を伺いたいのですが。
森田：え、辛かったことですか？
そうねぇ。何だろう…20代の後半頃かな。
坂之上：お若い時ですね。
森田：当時、石油をパイプラインで首都圏を通過させる構想があり、私は、国鉄と石油元売り各社の作った会社に出向していたんです。
でも、これが昭和48年に必要性がなくなってしまったのです。
坂之上：第1次オイルショック、ですね。
森田：はい。仕事が何もないという状況になりました。本当に何もないんですよ。
坂之上：仕事がないって嬉しい気もするのですけど。
森田：そりゃ短い期間なら良いけれど、きょう一日どうやって過ごそうというような感じって想像できます？
坂之上：ずっと先のあてもなく何もしないのは、確かに大変そうです。
森田：そこに加えて、新しい上司とあまり馬が合わなくてね、もっと苦しくなってしまった。もう体が言うことを聞かないというか、胃潰瘍にもなってしまって。ストレスがドンドン溜まってしまったわけです。
坂之上：仕事がないうえに、上司とも馬が合わなかったのですね。
森田：はい。精神的に、もうどうにもならなくなった。
坂之上：そういうことは、会社に報告したのですか？
森田：いや、言わなかったというか言えなかったです。今とは時代が違いますよね。
坂之上：鬱っぽくなっていました？
森田：そう。完全に。これではもうだめだなと思って、

代表取締役社長
森田 公生

×

経営ストラテジスト・作家
社外取締役
坂之上 洋子

Shift for the Next
私たちが追い求めるもの

JOTグループで働く社員が社会との関わりの中で
大事にすべきこと　そして何を目指していくべきなのか

友人に「人間一番辛い時にどうしたらいいか」って聞いたんです。そうしたら、酒を飲んで愚痴ったりするのはその時にはいいけれど、一時的だって。基本的には汗を流さなければだめだね、と。

坂之上：あぁ。それは確かに本当にそうですよね。

森田：だから毎日何か運動したほうがいいとその友人に言われ、それで会社の帰りに毎日プールへ行って、千メートル泳いでいました。今はたぶん百メートルも泳げないんじゃないかなぁ（笑）。でも当時は毎日泳いでいましたね。

坂之上：その時は将来、社長になるかもとは？

森田：思うわけない！そんなこと全然。その後もずーっと思わなかったですよ。

坂之上：そうなんですか。じゃあ会社から、ご自分が大事に扱われているとは感じていなかったのですか？

森田：もちろん、思わないですよ。底辺を歩いているなと思っていました（笑）。

坂之上：（笑）その時に何かを乗り越えるには、体を鍛えることが精神的な強さにもつながると悟られたのですね。

森田：いや、あまり戦略的にそういうことを思ったわけではないです。でも、やはり健康というのは一番大事だなと。

坂之上：そういう経験をされたことから、今、辛いことがある方がいるとしたら、社長からどんな言葉を贈りたいですか？

森田：一言で言うなら、与えられたことに不満でも、前向きに取り組んでいく姿勢をどう「自分で作るか」ということでしょうね。あとは、企業人としてと言うよりも、ひとりの人間として色々なものに興味を持ったほうがいいと思います。あまり狭くこぢんまりとしないで、好奇心を持つというかな、ちょっと子どもっぽいんだけど。それは歳を重ねても忘れてはいけないと自分にも言い聞かせています。

坂之上：今までとは違うことを、興味を持ってやってみるのがとても大事だと？
森田：そうすると、そこで得るものも多いんですよ。ひとつのことを深く追求してやるのもいいのだけれども、広く浅くとにかく同時に色々興味を持ってやったほうがいいと思います。やはり人は何かに興味を持つというか、そういうことが多ければ多いほどいいと思うんですよ。
坂之上：確かに。関係ないことにでも、面白そうって興味を持って話を聞いてくれる人は一緒にいても楽しいですよね。

成功するのは１割
新しい発想はウェルカム

坂之上：私はJOTグループの社員を見ていて、本当に真面目できっちりしている方が多いなと感心しています。私がアドバイザーを務めている会社はベンチャー企業が多く、日本石油輸送のような歴史がある会社とは風土が違うのです。ですので私も、学ぶことが非常に多くありました。
もともと父親が運送会社を立ち上げて、西日本に拠点を広げていくのを見て育ったので、運送業界自体に親しみはありましたが、父親もゼロからの起業ですからその点でいえばベンチャー気質です。つまり何度もトライアンドエラーを重ねてきています。
森田：われわれは非常に危険な品を扱っているので、確実な仕事がすごく求められます。
ですが、私が会社に入った時は石油が中心で、その後コンテナがあって、LNG（液化天然ガス）があって、今では海外事業も手がけ色々なことをやっています。「決まったことをきちっと」ということがベースにはなるのですが、それだけでいいとは思っていません。
坂之上：もし石油だけをやっていたら、今のJOTグループはないわけですし。
森田：そうです。「決まったことをきちっと」だけしかしてこなかったら今頃会社はないですね。
だから新しいことをベンチャーのように切り拓いていくのも大事なんです。
坂之上：新しい発想はウェルカムな感じですか？
森田：それは、もちろんウェルカムですよ。
坂之上：でも、これをやったらいいのではないかなという改善だったり、新しい商売もトライしてみたけれど赤字だったとか、挑戦してもうまくいかないことが多々あると思います。
だからきちんとすることが大事な会社では、新しい発想があっても言いたくない。逆にマイナスや汚点になるかもしれないと、躊躇される方も多いのでは？
森田：新しく何かをしようとしたら、それはうまくいかないほうが多いでしょうね。ユニクロの柳井さんでしたか、新しいことは1勝9敗で良いと言っていますし。
やるかやらないかは経営者が考え決めます。だから失敗しても私の責任ですよ。
みんなでどんどんネタは考えて欲しい。

坂之上：9割失敗しても当然だと言うぐらいなので、提案した方の汚点にならないということですか？
森田：全くならないです。新しいアイディアはうれしいです。今の既存の仕事の中でも、必ず何か新しくできることはあるはずなんです。
坂之上：海外事業もそうですよね。最初決められた時にはどうなるかわからないという状況で…。
森田：これは結構勇気が要ることでした。
坂之上：でも最近の数字を見ていると、この決定はすごく良かったと感じられているのでは？
森田：赤字部門から脱却できてはいませんし、まだまだこれからの状態ですから、どうなるかわかりません。今後、色々な問題が出てくると思いますが、でもやはりそういった「健全な赤字部門」というか、そういう部門を会社として持つということも活性化になるだろうし。そこを何とか育てていこうと。
坂之上：もう決められたのですね、育てていこうと。
森田：はい。腹を決めていますから。うちの会社は、実はあまり失敗していません。打つ手打つ手が堅いので、失敗しないのです。でも私はどちらかと言うとそのほうが心配だと思っていますよ。

女性の活用や多様性は社内全体を活性化する

坂之上：JOTグループの中での女性の活躍について、どのように考えていらっしゃいますか？
森田：運輸業界は今も男社会なので、割合からすると女性が少ないですが、日本石油輸送の場合は自ら輸送するわけではなく、JOTグループの中では女性の役職者の働く割合は、今後多くなっていくと思います。
坂之上：では女性だから出世できないとか、そういう考えは社長の中にはない、と？
森田：それは私の中にもありませんし、個人の実力次第です。
坂之上：社外取締役として私が登用されているのですから。多様性を重視してないはずは、ないですよね？
森田：新しい風が吹いていますよ。暴風ですが（笑）。
坂之上：暴風!?（笑） 私は女性であるという前に、風土が違うベンチャー企業のアドバイザーを多く務めているので、発言の角度が違うみたいですね。
森田：ええ。いい意味で、役員の中でも緊張感が生まれました。今までだらだらしていたという意味ではないですが（笑）、やはり多様な視点があるということは、ものすごくいいことですよね。
坂之上：JOTグループでどんどん活躍する女性が増えると、逆にこの業界、運送業界全体が男社会ということもあるので、そういう意味でもまた良い立ち位置が取れると思うのですが。
森田：そうですね。あと、女性の場合、出産や子育て、転勤の問題などがあり、それをどういうふうに吸収して、女性がより戦力として活躍できるかを、これからもう少し深く掘り下げていかなければいけないと思います。

坂之上：女性の出産だけでなく、例えば男性も育児、親の介護や病気になることもありますし、どうしても転勤できないとか時間的に制限されるような状況というのは出てきますよね。そこで優秀な人材が、自ら出世をあきらめてしまうのは勿体なさすぎですよね。
森田：それはそうです。どうしてもこれからの時代は、そこまで考えなくてはいけないですね。人事の中での改善も必要になってくるでしょう。それは、もう必要不可欠なことだと思います。
坂之上：女性でも男性でも、家庭の事情や問題が一時期にあっても、ちゃんと会社に貢献できるように会社のほうも歩み寄ってくれると、優秀な人が入社したくなるし、もちろん入社されている方々もずっと前向きな気持ちで仕事を続けていきたいと思いますよね。
森田：そうですね。働き方の多様性が出てくると先ほど話した緊張感が出るということにもつながると思います。そういう「良い風」は社内全体を活性化すると思っています。

大事なのは続けること

坂之上：昨年、子どもの貧困問題のことをきちんとやりたいとお話されていましたよね。
森田：はい。「あすのば」を紹介いただいて、寄付をさせてもらいました。「あすのば」は、実際に困っている子どもたちを助けるのと同時に、大学と共同して調査研究、実態調査を行い政府提言までしているところが良いなと思います。そういうのは個々の困っている子どもたちを助けるのと同時に、全体の流れや仕組みを変えていけるので。
坂之上：「あすのば」の職員の方からお聞きしましたが、日本石油輸送の寄付は、上場企業としては初めての寄付だったそうです。
子どもの貧困問題は、どこか関係ないことと無視している会社が多い中、目を向けていただいて大変ありがたく、ものすごい弾みがついたとお話されていました。
森田：それは良かった。
坂之上：あと、今までずっと続けてこられた盲導犬の育成支援や、他にもいくつかある社会貢献活動のことについてもお聞かせください。
森田：内容がどうこうと言うよりも、私はこうしたことは継続することが大事だと思っています。
盲導犬の育成支援もそうですし、子どもの交通安全のために近隣の小学校に黄色い帽子や傘等を寄付したり、地域のボランティア活動等もやっていますが、JOTグループらしさというものをある程度加味しながら、そして継続していくことが一番大事なのかなと思っています。
1回こっきりとかそういったものよりも、寄付額はあまり多くはないかもしれませんが、ずっと続けていきたいと思っています。
坂之上：「続ける」ですか。会社として70年以上続くことも同じですよね。その言葉に大変な重みを感じます。
森田：地味でもきちんと積み重ねる。続ける。
もうこれは経営の基盤と同じなんですね。

一番大切にしていること

坂之上：最後になりますが、社長が最近一番大切にされていることは何ですか？
森田：一番大切なこと、ですか。それはやっぱり事故をなくす、ですかね。特に非常に危険な品を扱っているので、細心の注意を払い労力の大半をここに突っ込んでいると言ってもいいかもしれません。それでも小さなヒューマンエラーは起こります。起こることはある程度仕方がない。起こるという前提で考えた時に、機械であれ装置であれそういったものがエラーを拾ってくれるような、そういった方法がないか、いつも考えています。
坂之上：JOTグループだけが持つ独自の方法というのもあるのですか？
森田：独自の方法と言えるかどうかわかりません

が、LNG輸送に関する基礎的な知識の習得から、実際の荷役作業における実技訓練までを行う研修施設を設けており、様々な工夫で事故を起こさないように教育・訓練をしています。
例えば、LNGのローリーは約17メートルある車輌なんですよね。あれが走ってくると、乗用車に乗っている人は威圧感を感じるわけです。それで「幅寄せされた」などのクレームが来るんです。
そこで、実際にローリーが後ろから迫ってきた時に、乗用車に乗っている人がどういうふうに感じるのか、ローリーの乗務員を乗用車に乗せて体験させるんです。逆の立場になって。
坂之上：視点を変えるということ、ですね。
森田：すると幅寄せなんか絶対していないと怒っていた乗務員が、「あぁ、確かにそう感じるな」と思い、クレームを言う人の気持ちがわかるんです。
坂之上：自分のやっていることを、相手がどう受け止めたのかを視点を変えてみせる。すごい重要なことですね。運転だけでなく、普段でも必要ですね。自分の言っていることを相手がどう受け止めているのかを、視点を変えて考えるのは。
森田：私もやってみないと（笑）。
坂之上：新入社員の視点になって社内を見渡してみる！とか。
森田：経営陣は、聞くだけではなくて、やはりみんなのアイディアで、いいものは実現するということをちゃんと示していかないと、提言する側も意欲がなくなってしまいますよね。
坂之上：これを読んだ社員の方々が、きっと社長のところに押し寄せますね！
森田：そんな気概あふれるぐらいの会社になるといいな、と思います。

JOTグループは、社会から必要とされ、社会とともに継続的な発展を遂げる企業を目指し、「社是」、「JOTグループ・ミッション」を“道しるべ”として、ステークホルダーの皆様に対して社会的責任を果たしてまいります。

社是

奉仕こそ我が務め

Service is my business

ポイント　社是の意味するところは、「企業は単に利潤を追求するだけではなく、業務を通して社会に奉仕するという高い理想を掲げるべきであり、そうした経営理念に支えられた企業のみが社会での存立の基盤を与えられ、発展を許される」という企業観に根ざすもので、1952年に制定されました。

JOTグループ・ミッション

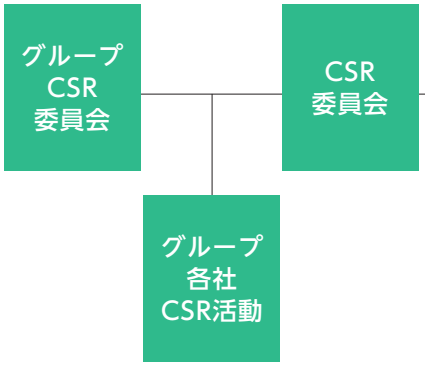
私たちJOTグループは、会社と仕事に誇りを持ち、**5つのミッション**を成し遂げて社会の発展に寄与いたします。

安　全	フェア	信　頼	チャレンジ	ハーモニー
1	2	3	4	5
セーフティ1st・安全を仕事の中心に徹します。	遵法精神と社会的良識をもったフェアな企業活動を行います。	最高の商品と輸送サービスを提供し、お客様からの信頼を得ます。	チャレンジ精神で新分野や新商品を開拓し、社会と社業の発展を目指します。	自然環境保護に努め、社会貢献活動を通じて社会との調和を図ります。

6つのテーマを一体的に展開し、CSR全体のレベルアップを目指してまいります。

日本石油輸送は、ステークホルダーの皆様からの信頼をさらに強固なものとするため、CSR委員会を中心に、6つのCSR推進活動テーマを設定し、一体的に展開しています。

また、グループ各社もCSR活動を実践しており、グループ一体となってCSR活動を推進するため、グループCSR委員会を設置しています。



コンプライアンス	法令の遵守や社会倫理に適合した行動が、JOTグループの健全な発展に不可欠との信念のもとに企業活動を行っていきます。
安　全	輸送事業において、安全の確保は絶対です。JOTグループでは今後もさらに愚直なまでに安全にこだわってまいります。
環境保全	自然環境保全、資源・エネルギーの効率的利用等に向けた取組みを進め、今後もさらに環境への配慮を徹底してまいります。
品質管理	お客様から信頼される高品質な輸送サービスの提供に向け、ニーズを的確に捉えた、安全で効率的な輸送システムおよび輸送容器を提供してまいります。
人間尊重	従業員一人ひとりが「いきいきと誇りと働きがいを感じる」ことができ、能力を最大限に発揮できるよう活動を行っていきます。
社会貢献	良き企業市民として、事業活動の場である社会の課題に積極的に関わるとともに、豊かで快適な社会の実現に向け、社会貢献活動を推進いたします。

定期的に活動を評価し、PDCAサイクルで取組みを進めています。

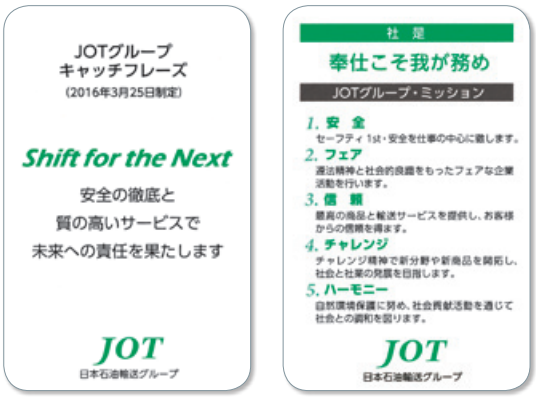
日本石油輸送のCSR活動は、社長を委員長としたCSR委員会で、年度ごとの活動実績とそれに基づいた次年度の計画を報告し、討議を行っております。

この計画に基づいて、CSR活動を推進し、半年ごとのCSR委員会でそれぞれのテーマの進捗状況を確認しています。2016年度の活動実績と2017年度の目標・計画は4月24日のCSR委員会にて報告されました。

テーマ	2016年度の主な目標	主な実施項目	2017年度の主な目標・計画
コンプライアンス	会社を取り巻くリスクの低減	リスクの整理・確認、再評価 業務に関連する法令等の整理・確認	リスクの整理・確認、再評価 業務に関連する法令等の整理・確認
	適切な情報管理	個人情報保護台帳の整理・確認 ソーシャルメディアガイドラインの周知	個人情報保護台帳の整理・確認 情報管理のあり方についての検討
	コンプライアンスに関する知識・意識の向上	メールによるコンプライアンス情報の発信 コンプライアンスチェックによる知識・意識の定着度の確認	メールによるコンプライアンス情報の発信 コンプライアンスチェックによる知識・意識の定着度の確認
	内部通報制度の充実	社内報・社内イントラによる制度の周知	社内報・社内イントラによる制度の周知
安全	安全な職場環境づくり	全国安全パトロールの実施 事故調査委員会・安全外部監査等の実施 グループ各社における安全性優良事業所の認定取得	安全な職場環境づくりを継続的に推進するために、全国安全パトロールの実施や、安全外部監査等を実施し、グループ一丸となって取り組む
	安全活動の全国展開と安全意識の共有化	全国安全委員会の開催 グループ統一安全活動の実施	全国安全委員会やグループ安全会議を通じて安全活動の全国展開と安全意識の共有化を図る
	安全教育の実施	安全推進者合同研修会の開催 危機予知・事故回避教育の実施	車庫長合同研修会等の開催や事故回避に向けた教育活動を実施し、安全意識の向上を図る
	運輸安全マネジメントの取組み	グループ各社において、PDCAサイクルに則った継続的改善の実施	運輸安全マネジメントの運用により継続的に輸送の安全性の向上に努める
環境保全	JOT環境マネジメントシステムの維持、推進	マネジメントレビューの開催 有効な内部監査の実施	JOT環境マネジメントシステムの維持・推進に努める
	業務における環境負荷軽減（CO_2排出量削減）	鉄道貨物輸送の推進 バイオ燃料の円滑な輸送の実施 LNG輸送による環境負荷の低減 太陽光発電による環境負荷低減	業務における環境負荷軽減（CO_2排出量削減）を目指す エネルギー資源の効率的使用および使用量の削減に努める
	環境に関する教育の充実、社内における環境情報の共有化および社外への情報発信	気候変動キャンペーン「Fun to Share」への参加 エコドライブキャンペーン活動 グループ各社におけるグリーン経営認証の取得推進	環境に関する教育を充実させるとともに、社内における環境情報の共有化および社外への情報発信に努める
品質管理	国内輸送ならびに国際輸送における物流・ロジスティクスシステムの調査・研究	他社物流拠点および物流展示会の視察・見学の実施	国内輸送ならびに国際輸送における物流・ロジスティクスシステムの調査・研究 品質管理システムの運用と内部監査の実施
人間尊重	人権啓発の促進	人権に関する意識実態調査および職場環境のアンケートによる働きやすい職場環境の実現に向けた取組み 障がい者雇用の取組み	人権に関する意識実態調査および職場環境のアンケートによる働きやすい職場環境の実現に向けた取組み 障がい者雇用の取組み
	こころと身体の充実	健康増進に向けた取組み ストレスチェックの実施	健康増進に向けた取組み ストレスチェックの実施
	ワークライフバランス実現	有給休暇取得促進・定時退社推進日の実施等による時間外労働の削減への取組み	ワークライフバランスの観点から労働時間管理と有給休暇取得等に向けた取組み、効率的な業務の推進を継続する
	従業員のキャリア形成と能力支援	次世代育成のための教育プログラムの実施 グループベースでの人事交流と研修の実施 海外語学留学の推進	次世代育成のための教育プログラムの充実やグループベースでの人材交流や研修を継続して実施する
社会貢献	企業としての支援の実施	視覚障がい者支援：盲導犬育成団体への寄付、体験型活動 次世代育成支援：事務所近隣の小学生に対する黄色い帽子・傘・自転車用ヘルメットの寄贈、子どもの貧困対策に取り組む団体への寄付	援助を必要とする人々や団体への継続的な支援を行うことを念頭に置き、活動の充実を図る 寄付だけでなく、より理解を深めるため、体験型活動も取り入れる
	ボランティア活動	収集ボランティア、地域のイベントや事務所近隣の清掃活動等により、地域社会との交流を実施	より多くの従業員が参加できるよう、誰でも気軽にできるボランティア活動を継続する
	環境保全活動	環境保全に向けた支援として、神奈川県主催の「森林再生パートナー制度」に参加 森林整備ボランティアを実施	寄付だけでなく、より理解を深めるため、体験型活動を重点的に実施する

社会から信頼され続ける企業グループを目指し、コンプライアンスの徹底を図ってまいります。

CSR経営を推進していくうえで重要なことは、法令やルールはもとより、広く社会規範も含め遵守することです。JOTグループでは、経営理念に基づき、事業活動全般において求められる法令・ルールを十分に理解し、さらに一個人・一市民として社会規範を尊重し、良識と責任をもって行動できるよう取り組んでいます。経営理念については、全役職員に名刺サイズのカードを配布し、その浸透を図っています。



JOTグループ経営理念カード

1 リスクマネジメントに対する取組み

日本石油輸送では、事業運営に重大な危機が発生した際のリスクの顕在化の予防と、被害を最小限に抑え事業を継続させることを目的に、会社が抱える多種多様なリスクを1件ごとにシートにまとめ、これを毎年度見直すことで、継続的に取り組んでいます。

2 情報管理に対する取組み

個人情報の管理においては、マイナンバーも含め、法令に則った規程を整備し、また会社が保有する個人情報を「個人情報保護台帳」で管理し、定期的に確認・更新する仕組みを運用しています。

また、ソーシャルメディアの取扱いについては、個人が利用する際の基本的な考え方や留意点をまとめたガイドラインを策定し、適切な利用に向け、周知を図っています。

3 コンプライアンス教育

コンプライアンス通信（社内報）

コンプライアンスの徹底を図っていくためには、全役職員一人ひとりの知識や意識を高めていく必要があります。そのため、各種研修時において、各層の実態に即した教育や外部講師を招いたコンプライアンスに関する講演会を実施するほか、社内報やメールマガジンでコンプライアンスに関連する情報の提供に努めています。

また、自分自身の行動の振り返りと正しい行動に向けた再自覚を促すことに加え、経営理念や社内ルールおよび業務に関連する法令の理解度等を把握するため、セルフチェック方式による「コンプライアンスチェック」を実施しています。

コンプライアンス講演会

4 内部通報（ヘルプライン）の運用

JOTグループ各社では、事業活動に伴うリスクや不正行為の早期発見と解決および未然防止の観点から「内部通報制度」を設け、社内報やイントラネット等により、周知を図っています。

本制度では、通報者のプライバシーへの配慮や通報者に対する不利益な取扱いを固く禁止しているほか、通報窓口も社内通報窓口に加え、社外通報窓口（弁護士事務所）を設置しており、より安心して通報できる環境を整備しております。

お客様に信頼される高品質な輸送サービスのご提供を目指します。

1 品質管理委員会

2016年度は、活動テーマを「国内輸送ならびに国際輸送における物流・ロジスティクスシステムの調査・研究」とし、他社の生産拠点見学や展示会等への参加により、品質管理に対する認識を高めました。

他業種見学

(1)自動車メーカーおよび食品メーカー見学

参加委員の声

「身の回りの整理」が、結果として「仕事の品質」につながるということを実感しました。日本石油輸送では、現場作業があることに加え、関連会社への技術指導もあります。身の回りが乱雑であることは、仕事の効率化にはつながらず、「仕事の品質」を下げる結果にもなり、何より「安全」に対する意識も下げることとなります。道具一つ、ゴミ一つ、全てが「安全」や「品質」へのモチベーションを上げ下げする可能性がある、そして仕事をするうえではその点に気を配らないといけないということを、改めて実感することができた見学でした。(コンテナ部)

今回は食品工場のパッケージングの工程を見学しました。包装の不備であっても、製品として「受け入れられない・受け渡せない」という風潮が日本国内には特に強いと感じています。このパッケージング(外観)に関して日本石油輸送に関連させてみると、鉄道やシャーシに載っているコンテナ一つにしても、汚損が激しいとイメージの低下につながる要因となり、日々のメンテナンスの継続が品質向上に直結していることを実感しました。(経理部)

(2)品質管理システム対象支店への内部監査の実施

2016年11月～2017年1月に品質管理システム対象支店におきまして、内部監査を実施しました。内部監査の結果、全ての対象支店において不適合事項および修正事項等の指摘はなく、品質管理システムの有効な運用を確認することができました。

2 品質向上への取組み

日本石油輸送の石油部門では年1回の「タンク車自主点検」により、タンク車のバルブ・内部状態・外装・パッキン等消耗品のメンテナンスを実施しています。化成品部門では、建造から一定期間以上が経過し、外観の劣化が著しいコンテナはリファビッシュ※を行い性能を維持しています。LNG部門では高圧ガス保安法に基づく容器再検査をグループ企業内でも行っています。また、コンテナ部門では、お客様により綺麗なコンテナを使用していただくため、定期的な庫内清掃を行い、「コンテナ美化」に向けて取り組んでいます。各部門とも容器メンテナンスの徹底を中心に、品質の維持・向上に取り組んでいます。

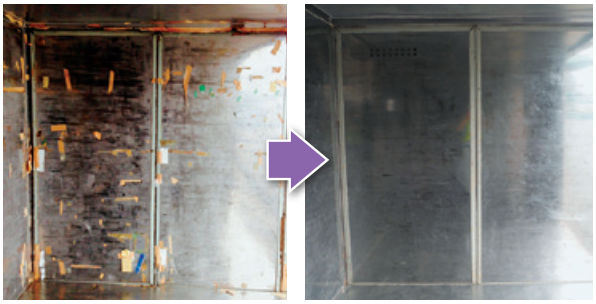
※ 製造後10年経過を目途に、劣化した断熱材の取替え等の機能維持と経年による汚れが目立つ外装材の全面取替え・再塗装を行うことです。

タンク車の自主点検

LNGコンテナの容器再検査

化成品コンテナのリファビッシュ

冷蔵コンテナの外観



冷蔵コンテナの庫内清掃

日本石油輸送の安全活動基本方針

スローガン 「勝ち取ろう SAFETY 1stで 顧客の信頼」

基本方針

1. 輸送品質を高めお客様のブランド向上・信頼に応える
2. 法令と基本作業を守る

目標

1. 協力会社事故ゼロ　2. 連絡車事故ゼロ　3. 事務ミスゼロ

具体的活動内容

1 安全強化月間

日本石油輸送は、「安全」に取り組む強化月間を7月と12月に設定し、お客様へ安全・安心な輸送サービスを提供すべく、安全活動の強化を図っています。

夏季である7月は「全国安全パトロール」を毎年実施し、各所における労災や事務ミスの防止に努めています。

冬季である12月は連絡車事故ゼロを目指すべく、安全運転について改めて確認するため、業務用連絡車に導入しているドライブレコーダーを活用した安全教育を実施しており、従業員の交通安全意識の向上に努めました。

2016年度全国安全パトロール実施場所

7月 ●中部支店 ●関西支店 ●メンテナンスセンター
2月 ●新潟事業所
（計4ヵ所実施）

2 全国安全委員会の開催

日本石油輸送は安全活動の共有化の徹底、また、安全確保に向けた取組みの強化を目的に、安全委員をはじめとする各支店・事業所の安全推進者による「全国安全委員会」を設置し、安全重視の企業風土を確立するため、活動しています。

3 協力会社訪問ヒアリング

日本石油輸送は、「協力会社訪問ヒアリング」を実施しています。協力会社の方々に対し、日本石油輸送の安全方針や安全活動をご理解、ご協力いただけるよう努めています。

4 安全運転研修

日本石油輸送では、業務用連絡車の安全運転指導を行うため、株式会社日通自動車学校様のご指導による「安全運転研修」を受講しました。安全を優先する運転の重要性を全従業員へ展開しています。

JOTグループの安全活動基本方針

スローガン　「安全を仕事の中心に　SAFETY 1st」

基本方針

1. 輸送品質を高めお客様のブランド向上・信頼に応える
2. 「運輸安全マネジメント」体制の充実を図る
3. 法令と基本作業を守る
4. 迅速な連絡を徹底する

目　　標

1. 隠蔽ゼロ　　2. 追突事故ゼロ　　3. 混油（液）、誤荷卸事故ゼロ

1 安全外部監査の実施

グループ安全対策本部では、決められたルール・手順を徹底するとともに、事故の未然防止を図るべく、グループ全車庫を対象とした「安全外部監査」を実施し、安全で確実な作業が一つひとつ忠実に実践されていることを確認しています。

荷卸訓練（エネックス庄内営業所）

2 安全推進者合同研修会

JOTグループ各社の安全推進者を集め、安全活動の要を担う者としての役割を再認識させ、グループの安全風土を確立することを目的とし、2日間に亘る研修を実施しています。

3 グループ会社　安全活動

エネックス　運行管理者教育会の実施

エネックスでは、各車庫の運行管理者を一堂に集め、『運輸安全マネジメント』に則り、エネックスの安全方針を着実に実践するため「運行管理者教育会」を実施しています。運行の要となる運行管理者のレベルアップを図り、更なる安全運行を徹底しています。

JKトランス　業務勉強会の実施

JKトランスでは、東邦車輛株式会社様のご協力をいただき、タンクローリーの製造工程と関連法規に関する理解を深めるため、全車庫の事務員を対象とした「業務勉強会」を実施し、職務意識の統一化を図っています。

グループ安全標語

「変わる環境　変わらぬ基本
ルールを守って　安全作業」

何より大切な家族の笑顔を守るため、焦らずゆっくり確実に、この標語を胸に日々の業務をこなして行こうと思います。

『2016年度グループ安全標語』　考案者
ニュージェイズ　雲井　伸二

地球環境に配慮した経営を「モーダルシフト」で推進しています。

1 環境基本理念に基づく環境マネジメント

日本石油輸送は環境基本理念・環境基本方針のもと、事業を通じた環境保全への貢献に全社で取り組んでいます。

環境基本理念

人類が自然環境と共存していくために地球環境の保全は世界共通のテーマであり、環境に配慮しない企業は存続しえないとの認識に立ち、あらゆる活動を通じて、自然との調和に努め、環境負荷の低減を図り、継続的に環境保全活動を推進する。

環境基本方針

1. 環境関連法規の遵守
2. 自然環境保全
3. 資源・エネルギーの効率的利用
4. 循環型経済社会の実現
5. 環境マネジメントシステムの継続的改善
6. 環境方針の周知と公表

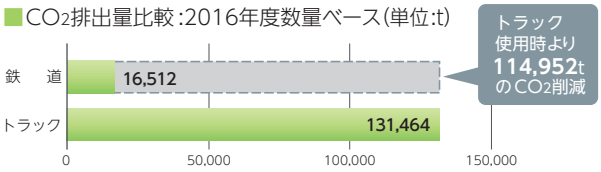
2 輸送を通じて環境負荷低減に貢献

日本石油輸送は会社創立以来、「環境に優しい鉄道」を輸送手段とし、生活や産業を支えるエネルギーや製品を輸送しています。また、2013年からは太陽光発電事業を開始し、環境負荷低減に貢献しています。

【石油タンク車輸送で環境負荷低減】

2016年度に当社タンク車（鉄道）が輸送した石油類は約533万klです。これは一般的なタンクローリー（20kl）の約27万台分の輸送量に匹敵し、タンクローリー（トラック）使用時と比較して約11万5千tのCO_2排出量を削減したことになります。

■CO_2排出量比較：2016年度数量ベース（単位：t）



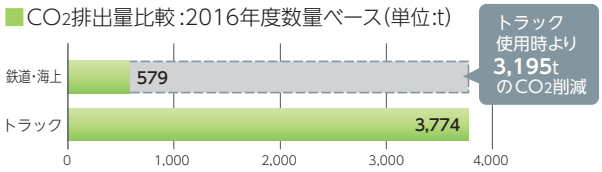
【LNG輸送で環境負荷低減】

LNGは石油や石炭に比べて燃焼時のCO_2排出量が少ないクリーンエネルギーです。2016年度に当社が輸送したLNG輸送量と同量の石油を利用した場合のCO_2排出量を比較すると、約81万4千tのCO_2を削減したことになります。

【化成品輸送で環境負荷低減】

各種化学品・食品等の液体・粉粒体の輸送において、鉄道・海上輸送への誘致を積極的に行い、同区間をトラック輸送した場合と比較すると、2016年度は約3千tのCO_2排出量を削減したことになります。

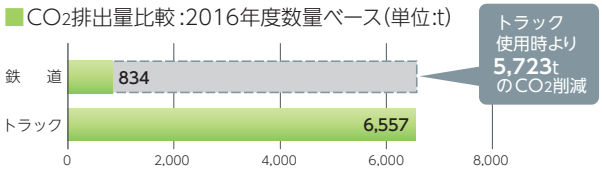
■CO_2排出量比較：2016年度数量ベース（単位：t）



【コンテナ輸送で環境負荷低減】

高い断熱性能を有するスーパーURコンテナは、保冷・保温の必要性が高い荷物を中心に需要があります。同区間を保冷・保温トラックで輸送した場合と比較すると、2016年度は約6千tのCO_2排出量を削減したことになります。

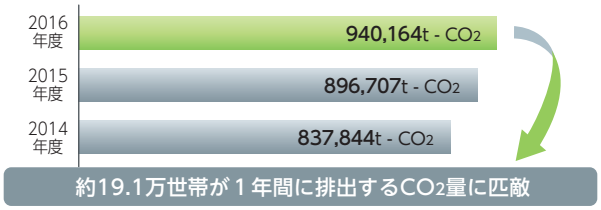
■CO_2排出量比較：2016年度数量ベース（単位：t）



【太陽光発電で環境負荷低減】

2013年から現在まで、全国4ヵ所に太陽光発電設備を設置しました。2016年度の年間総発電量は454万6千kwhで、約2千tのCO_2排出量削減効果がありました。

■事業活動によるCO_2排出削減量



※1世帯あたり4.92ｔ/年にて算出(出典：国立環境研究所ウェブページ)

3 次世代クリーンエネルギー輸送

水素は、燃焼してもCO_2を排出しないクリーンな次世代のエネルギーとして注目を集めています。JOTグループでは、固定式水素ステーションに水素を輸送する業務に加え、移動式水素ステーションに関わる業務を受託しています。水素エネルギーの利用拡大に向けて、輸送の面から貢献しています。

仕事も全力、人生も楽しむ、
私たちは、いきいきとした生活を実現します。

1 「個の尊重」を主題とした人権啓発の推進

人権啓発の推進のため、2016年度は働きやすい職場環境づくりを目指して取り組み、人権ポスターによる意識づけや、職場環境・人権に関するアンケートを実施しました。

2 こころとからだの充実と健康管理

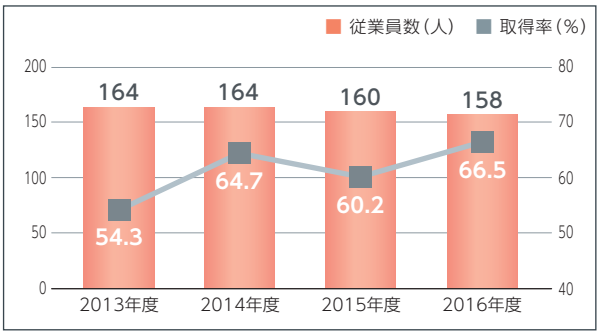
従業員の健康管理に向けた取組みとして、からだの健康増進のための「健康チャレンジキャンペーン」を継続実施し、さらに2016年度は労働安全衛生法に基づくストレスチェックを実施しました。いずれも特に問題となる状況は指摘されていません。

3 ワークライフバランスに向けて

仕事と生活の両立支援として、子育てや介護をしながら、誰もが仕事と生活の調和がとれた働き方ができるよう、制度ならびに職場環境の整備に努めています。出産・育児を行う従業員への理解と支援を行い、ワークライフバランスに向けた取組みを着実に進めています。

働きやすい職場環境の実現として、時間外労働の削減、有給休暇取得促進や良好な人間関係の実現を進めました。一人あたりの平均有給休暇取得率60％超を実現しています。

有給休暇取得率



4 人材育成プログラムの充実

次代を担う若手社員の早期育成をさらに充実させ、かつ、従業員全体の専門能力を高めるために、OJT、OFF-JT、自己啓発支援を有機的に組み合わせた教育プログラムを実施しています。また海外事業拡大に向けた人材育成の一環として、語学向上研修、海外短期語学留学を実施しております。

■集合型研修

	2014年度	2015年度	2016年度
マネジメント研修	3名	3名	3名
管理者研修	−	10名	12名
中堅社員スキルアップ研修	13名	−	−
営業力向上研修	−	11名	−
若手社員パワーアップ研修	−	8名	11名
新入社員研修	6名	4名	4名

■自己啓発（通信教育受講者数）

	2014年度	2015年度	2016年度
通信教育受講者数	84名	83名	83名

■主な資格取得

	2016年度取得者数	累計取得者数
高圧ガス製造保安責任者	2名	52名
危険物取扱者（乙種4類）	7名	153名
運行管理者（一般貨物自動車運送事業）	5名	73名
防火管理者	3名	55名
酸素欠乏危険作業主任者	6名	76名

※ 累計は現在の在籍者による

■各種研修風景

育児休職制度利用者の声

■人事部　岡田　直子

2012年の長女出産に続き、2016年には次女出産のため育児休職制度を利用しました。二度の出産を経て、この4月から復帰しましたが、一日があっという間です。それでも現在は育児短時間勤務等の制度を利用し、子どもと触れ合う時間も持てています。また、同じ環境の社員との情報交換もでき、周囲の温かさに励まされ、精一杯頑張っています。

社会とともに生きる企業グループとして、日本石油輸送らしさを生かした社会貢献活動を進めます。

日本石油輸送では、社会と共生することができる企業グループとして、部門横断的なメンバーで構成される「社会貢献委員会」での議論・検討のもと、社会貢献活動に取り組んでいます。

～JOTグループの事業と関係が深く、主体性を発揮できる活動を目指して～

1. JOTグループらしさを生かすことができる社会貢献の実施
2. 従業員が主体性を持って参加できる社会貢献の実施
3. 社会の一員として、地域に根ざした社会貢献の実施

1 障がいを持つ方への支援活動

日本石油輸送では、輸送事業に携わる企業グループとして、目の不自由な方が、安全に道路を利用していただけるようにとの願いをこめて、盲導犬の育成・訓練・歩行指導を行っている公益財団法人アイメイト協会と公益財団法人日本盲導犬協会への支援を継続して行っています。

また、従業員が両協会を訪問し、訓練士の方から盲導犬について学び、アイマスクを着用して盲導犬との歩行等を実際に体験するなど、目の不自由な方に対する理解を深める活動を行いました。

アイメイト協会へ寄付金贈呈

盲導犬との体験歩行

2 次代を担う子どもたちへの育成支援

日本石油輸送では、わが国の将来を担う次世代の育成のために、子どもを交通事故から守る黄色い帽子等を寄贈する活動を長年に亘り継続して行っています。

2016年度も黄色い帽子や傘、自転車用ヘルメットを本社、各支店近隣の小学校計9校、のべ558名の子どもたちへ寄贈しました。

大阪市立扇町小学校への黄色い傘の贈呈

3 子どもの貧困支援

子どもの貧困問題が社会問題化する現状を踏まえて、この問題に取り組んでいる公益財団法人あすのばに対して、寄付を行いました。

公益財団法人 USNOVA あすのば 子どもの貧困対策センター

4 環境保全活動

環境に配慮した社会貢献活動として、神奈川県が森林の豊かな恵みを次世代に引き継いでいくために取り組んでいる「かながわ水源の森林づくり」の「森林再生パートナー制度」に2011年3月から参加しています。本制度は森林を整備するための寄付だけではなく、間伐、下草刈り、枝打ち等の森林を保全する活動を自らが体験することによって、森林のはたらきやその重要な役割に関する理解を深めており、2016年度も従業員によるボランティア活動を行いました。

枝打ち作業の模様

参加者の声

神奈川県南足柄市塚原にある森林ボランティアフィールドにて枝打ち体験など自然に親しめる活動を行いました。

■グループ安全推進部　内藤　康晴

私と長男の家族２名で参加しました。大自然の森の中に入り、自然と触れ合い、親子でその役割を学ぶ良い機会となりました。小さな子どもに枝打ち体験はまだ難しいので、私たちは、間伐などで発生した廃材を鋸で切るコースター作りを体験しました。インストラクターの方が鋸の使い方をやさしく教えてくださり、長男にとっては、初めて鋸を使う貴重な体験となりました。できあがった作品は彼の宝物で今でも我が家に展示されています。

5 地域に根ざした社会貢献活動

本社や支店・事業所を中心に地域に根ざした様々な社会貢献活動を行っています。各支店、グループ各社でも事務所近隣地域の清掃活動などを継続して行っています。

参加者の声

品川区立三木小学校で開催された「品川区民まつり」に従業員が参加し、焼きそばの調理や販売を行い、地域の方々と交流を深めました。

■関東支店五井営業所　中森　浩樹

『日頃よりお世話になっている地域の方々に恩返しをしたい。』という気持ちを胸に活動に参加しました。当日の天候は、猛暑が続く7月ではめずらしい曇天ではありましたが、熱中症や大きな怪我もなく、活動を全うすることができました。ブース運営等の活動を通じ、地域の方々や会社の皆と一丸となって物事を成し遂げた達成感は、貴重な経験であると強く感じました。次年度以降も機会があれば、積極的に参加したいと考えています。

参加者の声

毎月第1、第3水曜日の昼休みに本社近隣の目黒川沿いの歩道で清掃活動を行っています。2016年度は計19回、のべ227名の従業員が参加し、美化に努めました。

■コンテナ部　井坂　綾子

タバコの吸殻、コンビニ袋、空き缶など・・・多くは投棄されたゴミを拾い集める作業です。ただゴミ拾いをするだけでなく、清掃活動中は部署をこえてコミュニケーションをとることができ楽しく活動しています。

私たちの活動を目にした方々が、ゴミを捨てない意識を持つきっかけとなることを願っています。

JOT

日本石油輸送株式会社

日本石油輸送株式会社
〒141-0032　東京都品川区大崎一丁目11番1号
（ゲートシティ大崎ウエストタワー16階）
TEL.03-5496-7671　FAX.03-5496-7856
http://www.jot.co.jp/

この冊子は、適切に管理された森林から生まれたFSC®認証紙、植物油インキおよび有害な廃液の出ない水なし印刷で印刷しています。